

「生まれ育ったこのまちが好き。だから、まちのために働きたい」これは、地方公務員になった人に共通する思いだろう。それでも職場で仕事をするとときに、「自分が地域の役に立っている」と実感できることがどれくらいあるだろうか。日々目の前に与えられた課題と向き合い、法律や規則に則って、上司からの指示や計画どおりこなすことだけに追われていると、その大切さにはなかなか気づきにくい。

現在多くの自治体で進められている改善活動も、活動自体が目的になり、せっかく成し遂げた成果がその場限りで終わったり、同じような改善を繰り返したり、首長交替によって活動が立ち消えることがしばしばある。

本来役所の仕事は、地域の理念やめざす姿と一貫性をもって行われることで「地域の役に立つ」ものに積み上がっていく。しかし、そのつながりが意識されていないと「点」の取組みに終わるばかりでなく、仕事の達成感ややりがいも感じにくくなる。

そこで、本連載では、①職員が常に「何のためにやるのか」を意識して自分の仕事の位置づけをとらえる、②それぞれのレベルでの役割をよりよく果たす改善をする、ことで地域

に役立つ改善をしていくための取組方法を探求していきたいと思う。改善の目的を見失わず、よりよい地域づくりとのつながりを持って進めていくためにはコツがある。



・職員のうち誰でもどこでも気軽に取り組める。
・「おかしいな」と感じる疑問や「もったいない」という気づきから、小さな成功体験をつくる。
・改善結果を標準化して定着させる。
【事業改善】
・他部署やパートナーと一緒にうま

第1回

地域に役立つ「改善」とは？

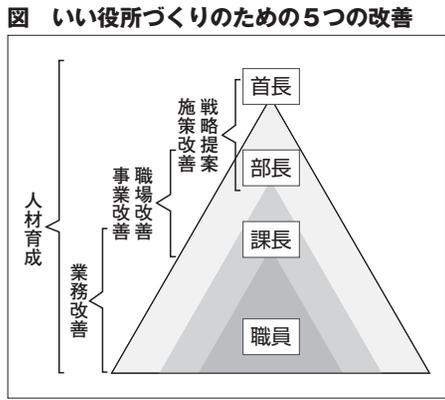
自治体改善マネジメント研究会(*)
株式会社スコラ・コンサルト
行政経営デザイナー
元吉由紀子

は、Pのレベルによって中心となるメンバー（主役）が異なるため、主役となる人たちが動きやすい環境を用意すること。
次回からは、以下の五つの改善レベルで取り組んだ自治体事例を紹介していくことにする。
【業務改善】

く連携する。
・地域や住民の成果に結びつける。
【職場改善】
・チームとして組織目標を共有する。
・困ったことがあったときに一緒に相談し、協力し合う関係をつくる。
・失敗からともに学び試行錯誤する。
【戦略提案・施策改善】

・経営幹部層が思いを一つにして、施策の優先づけを意思決定する。
・現場から知恵を引き出して、戦略を見直し、新しい戦略を提案する。
【人材育成】
・めざす人材像に向けて成長する。
・総和以上の相乗効果を生み出す組織マネジメント力を育成する。

今後地方では、地方創生のため、総合戦略の実現と成果を強く求められるようになる。役所も単に定数や給与、事業予算を削減して効率化を図る量的改革にとどまらず、役所の果たす役割を明確にして、職員と組織の能力を高め、効果を最大化していく質的改革と向上に取り組む必要があるだろう。これら五つの改善は、この経営改革の進捗に応じて、うまくつなぎ合わせていくことが重要だ。



*自治体で長年改善運動を推進してきた熟練職員と行政経営デザイナー元吉由紀子が共同で2013年に設立。自治体における改善運動が行政経営の目的や状況に応じて効果的かつ効率的に進められるよう、実践事例情報を収集、分析、ナレッジ化して情報発信、実践活用することを目的として活動している。ホームページ、Facebook「自治体改善の輪」を運営。共に「地方が元気になる 自治体経営を変える改善運動」(東洋経済新報社)。